

平成27年度
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI
(研究成果の社会還元・普及事業)
実施報告書

HT27264 お家にナースがやって来る！～これからの時代のナースの魅力って？～



開催日：平成27年8月5日(水)

平成27年8月6日(木)

実施機関：高知学園短期大学 老年・在宅看護実習室
(実施場所)

実施代表者：池田 恵美子

(所属・職名) (看護学科・教授)

受講生：中学生 10名

関連URL：

【実施内容】

■当日のスケジュール

1. 受付 (9:40-10:00)

事前に会場の入口に、使用するファイル、名札を準備し、受付後にファイルの色を選んでもらい、席に着くようにしました。

2. 開会式(10:00-10:20)

- 1)まず、地震などの非常事態の避難経路について説明し、次に、熱中症予防のために会場に設置してあるお茶を自由に飲んでよいこととお知らせしました。
- 2)プログラム中に写真を撮影させていただくこと、撮影した写真を学術振興会や本学のHPIに掲載することについて説明し、不都合のある方の申し出ていただくよう依頼しました(申し出はありませんでした)。
- 3)実施代表者の挨拶の後、自己紹介と学術振興会からの資料をもとに科学研究費についての説明をおこないました。

3. 看護師の仕事について(10:20-11:00)

看護師の活躍の場所が病院や診療所だけではないことや、訪問看護の特徴について説明しました。実際に訪問バッグの中身を出して物品に触れ、受講者の興味を引き出すようにしました。訪問バッグの中の聴診器を用いて自分の心音を聴取したり、新生児モデルの心音を聴取したりして、中学生と新生児の心音の違いを実感できるようにしました。

4. 訪問看護師の仕事について(11:10-11:55)

地域で訪問看護師として活躍されている方をお招きして具体的な事例について講話を聞き、また(社)全国訪問看護事業協会が制作した「私の訪問看護職場体験」というDVDを観て、自宅に訪問することへのイメージが持てるようにしました。

5. 昼食(11:55-13:15)

昼食の時間は、補助学生と一緒に食事を取り、また各自、自分の好きなものを発表する自己紹介を通して、親睦を深めました。



6. 体験実習「訪問看護を体験してみよう」(13:15-15:00)

- 1)実習では、各自が選んだエプロンを着用して、補助学生と共に自宅に見立てた対象者のお宅へ訪問し、健康状態や生活の様子を見させていただきました。体温とパルスオキシメーターは受講生が、血圧は二股聴診器を用いて補助学生と一緒に測定しました。

2) 対象者役の補助学生の協力を得ながら、赤ちゃんと一緒に暮らしについてお話を伺いました。



3) ステーションに見立てたブースに戻って、補助学生と共にオリジナルファイルにある記録用紙に対象者の様子を記録し、訪問のまとめをしました。



4) 受講生は、緊張しながらも訪問時の挨拶や受け答えがとても丁寧できていました。また、対象者のお孫さんを抱かせていただいたり、お話を聞かせていただく中で、対象者の生活についてもイメージできていました。対象者の「来てくれてありがとう」という言葉を聞いてとても嬉しそうでした。

7. クッキータイム・ディスカッション(15:00~15:20)

一日の体験を振り返り、感想や意見交換をしました。その後、アンケートを記載しました。

8. 閉会式(15:20~15:30)

修了証書を一人ひとりに手渡して未来博士号を授与し、記念撮影をしました。



■受講生に分かりやすく研究成果を伝えるために、また受講生が自ら興味を持って活動できるようプログラムを工夫した点

- 1) 訪問看護を具体的にイメージできるように、演習やロールプレイを重視したプログラムとし、受講生が「人の役に立つという体験」を通して、そのやりがいや責任の重さを感じられるような内容としました。
- 2) 自由に書き込んだり、確認したりできるようなオリジナルテキストを個別に作成し、プログラム終了後は持ち帰って復習できるようにしました。
- 3) それぞれの受講生と補助学生との関係を作るために、昼食後に交流の時間を設定して十分アイスブレイクを行い、訪問時にはエプロンを揃えるなどして、一体感が持てるようにしました。
- 4) 実習室の構造を利用して、ステーション(基地)と訪問先を設営し、ミーティングや事後の記録を通して「対象者に意図的に関わる」ニュアンスを伝えられるようにしました。

■事務局との協力体制

準備段階から、実施教員と事務局(学生支援課)とで連携をとり、役割分担して本事業を実施しました。事務局には、各書類のとりまとめ、発送、保管、委託費の出納管理、収支報告書の作成、学術振興会との連絡調整、広報活動の協力、当日運営への協力など、多大な協力を得ました。

■広報活動

カラーのチラシを作るとともに本学のHPに案内を掲載してPRしました。また、近隣の中学校を訪問して協力を依頼しましたが、台風の影響で終業式付近の行事予定が変わり、生徒へのチラシ配布が困難でした。

■安全配慮

- ①災害発生時の留意事項を口頭で説明しました。
- ②受講者全員を傷害保険に加入しました。
- ③熱中症予防のために室温調整に気を配り、いつでも飲めるよう教室にお茶を準備しました。

■今後の発展性、課題

1.今後の発展性

- 1) 科研費について、受講者の理解が深まり、訪問看護の体験を通してそのやりがいや責任について、楽しく学ぶことが出来ていたことがアンケートから伺われ大変うれしく思います。
- 2) 中学生は、将来の進路選択という意味では、まだまだ遠い先のように感じているのかも知れませんが、演習を通して人と関わる仕事の醍醐味をつかんでいるようでした。
- 3) 科学や研究と、自分達の暮らしとのつながりを実感するために、本事業は効果的であると考えます。

2.今後の課題

- 1) 中学生への広報のタイミングが難しいと感じます。早すぎるとクラブ活動の予定との調整がつきづらいようですが、事業開催について一度知っていただくことは大事かと思えます。今回も直接の働きかけが効果的であったため、できるだけ中学校の関係者とお会いする機会を持ち、参加を募る必要があると考えます。
- 2) 一緒に参加した受講生を一組として補助学生がつき演習をする形式は、受講生の緊張を和らげるためには非常に効果的であったと考えますが、想定以上に時間を要しました。そのため、一度に10名の受講生となると、効率的に体験できるようブースをブロックに分けてローテーション化する必要があることがわかりました。

【実施分担者】

矢野 智恵	看護学科・教授
高藤 裕子	看護学科・准教授
二本柳 圭	看護学科・講師
島田 洋子	看護学科・非常勤助手

【実施協力者】 15 名

【事務担当者】

中平 憲一 事務局 庶務課係長